

スクリーンダンス (screendance) のジャンル分けに関する一考察-ダンスと映像のポストメディアウムの状況-

松岡綾葉 (彰栄保育福祉専門学校)

スクリーンダンス (screendance) とはダグラス・ローゼンバーグの提唱したダンス映像を示す包括的用語であり、「その実践の終着点があらゆる画面上のあらゆるダンスのイメージであること」と定義されている。スクリーンとは映像を映し出すすべての媒体を指し、またダンスもそのジャンルを特定しない。舞台の記録映像、ビデオダンス、TV番組の中のダンスのみならず、SNS上で量産されるダンス動画なども含めて画面上に映し出されたダンスはすべてスクリーンダンスであるという広範な射程を構えているのである。

この再帰的で集合的な運動は同時代の映画においてもなされた。映像理論家フィリップ・デュボワは今日あらゆる画面媒体において増殖を続ける多種多様な映像に対し「すべてが映画である」と応答した。対してレイモン・ベルールは、そのような映像の雑駁性に反論し、映画が増幅して現代美術の領域に溢れ出していくさまに映画の自律性の危機を唱え、映画館での鑑賞を映画のあるべき姿とした。堀 (2014) は、両者の対立を浮き彫りにしつつも、「映画のアイデンティティがなくて揺るがされている」(堀) このデジタル時代において、ベルールの反時代的な考察が、映像環境の急激な変化に惑わされないためにも必要不可欠であるとしている。

スクリーンダンスにおいては、ローゼンバーグのもたらした概念がまさにデュボワの主張に呼応するだろう。それと同時に、スクリーンダンスの境界線がもはや曖昧で、映画や現代美術の領域と緩やかに混合しているという実態は、ベルールの指摘する映画の状況と酷似している。そしてその流出を押し止めるかのように、ローゼンバーグをはじめとして幾人ものスクリーンダンス研究者たちは「ダンス」を切り札にしてスクリーンダンスの自己差異化を図り、その特異性を論じている。

なるほど、映像という表現形式を得ながらも確かにダンスはスクリーンダンスの中心的概念であり、ダンスが映像の主要モチーフであるならばそれはスクリーンダンスと断定できるかもしれない。しかしながら、従来の慣例的な身体によるダンスを表現主体として用いず、動物・無生物の物体、はたまたデジタルオブジェクトによる動きをモチーフとした映像作品をスクリーンダンスに帰属させる動きが近年顕著である。それらの被写体はダンスのように見える知覚をもたらして

いるパフォーマーであるとはいえ、ビデオアートや実験映画との区別が難しいほどにエッジィである。

「比喩としてのダンス」(コーブランド)とも呼ばれるこのような身体無きダンスがもたらす知覚作用の機序については、今後の課題として留め置くとして、ここで問題となるのは、この系統がスクリーンダンスの周縁をますます広げて近接する芸術領域と融合し、スクリーンダンスの自己差異化を脅かしていることである。そこで筆者は、ベルールの主張を少しばかり擁護しつつ、スクリーンダンスの中心とその周縁を明らかにすること(=ジャンル分け)によってその自律性について改めて見つめ直したい。

なお、ローゼンバーグはすでに「ジャンル・グラフ」というスクリーンダンスのジャンル概念図を作成しているが、スクリーンダンスを支持する構成要素の羅列と俯瞰に留まっており、相互の関係性や距離間は認識し難く、更新の余地があると考えられる。

考察の手がかりとして、近年メディア芸術論において重要視されている「ポストメディアウムの状況 (post-medium condition)」の理論を援用することとする。ポストメディアウムの状況とは、1990年代に美術批評家ロザリンド・クラウスの提起した概念である。クレメント・グリーンバーグの唱えた芸術表現は固有のメディアムに純化すべきという規範:メディアムスペシフィシティ(媒体固有性)が、その後の芸術表現の多様化に伴い、固有のメディアムに還元できなくなった状況において、むしろメディアムの異種混交性こそが今日のメディアムのあり方であるとメディアム概念を拡張して再定義したものである。映像・映画は当然ながら、ひとつのメディアムに収斂されない複合性を持った表現形態であり、スクリーンダンスもポストメディアム状況下にあるといえる。

本研究発表では、ポストメディアウムの状況における思考をもとにスクリーンダンスの内情を改めて整理することで、この新しい芸術領域のアイデンティティについて一考していく。

主要参考文献

- Douglas Rosenberg, *Screendance: Inscribing the Ephemeral Image*, (Oxford University Press, 2012)
- ロザリンド・クラウス著・井上泰彦訳、『ポストメディアム時代の芸術-マルセル・ブロータース《北海航行》について-』(水声社, 2023)
- 表象文化論学会、『表象08』(月曜社, 2014)
- Roger Copeland, *The Best Dance is The Way People Die in Movie, The Oxford Handbook of Screendance*, (Oxford University Press, 2016)